



中学生横綱に与えられる綱を抱える鳴海君

## 木造中相撲部の鳴海匠馬君が全国制覇

全国中学校相撲選手権大会（8月19、20日、大分県）の個人戦で優勝し、第47代中学生横綱となった鳴海匠馬君（木造中3年）が8月24日、市役所を訪れ福島市長に喜びを報告しました。青森県からの中学生横綱誕生は、板柳町出身の振分親方（元高見盛）以来26年ぶりの快挙です。

鳴海君は身長171cm、体重80kg。大会では、体格ではるかに上回る選手を相手に、予選3戦を含め全10戦を勝ち抜きました。

福島市長は「相手も厳しい稽古を重ねてきたはず。すごい一言だ」と祝福。鳴海君は「みんなからの祝福で優勝の実感がわいてきた。気を緩めずに精進し、高校でもタイトルを目指します」とさらなる飛躍を誓っていました。

## いつまでも仲睦まじく

9月5日、つがる市福祉顕彰式が松の館で行われ、長年連れ添った夫婦の節目を祝いました。

今年は、ダイヤモンド婚夫婦（結婚60周年）9組、金婚夫婦（結婚50周年）19組。式では福島市長が「苦楽をともに乗り越え、ご夫婦そろって本日の式典を迎えられたのは、とても幸福で素晴らしいことです」と出席した夫婦を祝福しました。また、ともに88歳以上の夫婦20組に対し、西北地域県民局の福士聡地域健康福祉部長が県知事顕彰を行いました。

ダイヤモンド婚の岡元唯義さん・秋子さん夫妻は「ともに健康で今日の良き日を迎えられたことが何よりもうれしい」と喜びを語っていました。



顕彰状を受け取るダイヤモンド婚の岡元夫妻



講演する藤川さん

## 認知症を人間の視点で見つめ直す

世界アルツハイマーデー記念講演会が9月3日、松の館で開催され、約120人の市民らが認知症について考えました。

講演会では、詩人であり児童文学作家の藤川幸之助さんが登壇。「支える側が支えられるとき」と題して、認知症の母を12年間介護した自身の体験談のほか、その喜びや葛藤などを綴った詩の朗読を交えながら、認知症の方の心に寄り添うことについて講話しました。藤川さんは「母の存在が私の人間らしさを引き出し育ててくれたように、人は存在するだけで大きな意味を持っていて、その関係性の中で私たちは生かされている。人を支えることは同時に支えられることです」と語りかけ、聴衆の涙を誘っていました。

## 命を救う応急手当法を学ぶ

市民に応急手当の普及啓発をしようと9月8日、「応急手当普及イベント2017」が市農産物直売所（柏）で開催されました。これは、全国的に展開する「救急医療週間（9月9日救急の日を含む日曜日から土曜日までの1週間）」に合わせ市消防本部が主催したものです。イベントでは、救急車の展示のほか、AEDの正しい使い方や心肺蘇生法の実技講習などを実施。訪れた市民らは、つがる市消防署の救急救命士の指導のもと、体験用のAEDやダミー人形を使って熱心に応急手当の方法を学んでいました。実技講習に参加した今暁子さんは「AEDを使ったのははじめてでいい経験になった。いざというときは、慌てないで今日の訓練を実践したい」と話していました。



AEDの使用方法について説明を受ける参加者

## 地域を見守り秋空ウォーク

地域の安全を見守りながら健康の増進を図ろうと9月9日、むらおこし拠点館フラットを主会場に「地域安全ウォーキングin車力」が行われ、市内外から集まった約200人が心地よい汗を流しました。参加者は、5km、9km、15kmの3つのコースに分かれてスタート。秋空の下、収穫を待つ稲穂などの自然を眺めながら、それぞれのペースでゴールを目指しました。9kmコースの先頭で完歩した奥田悦郎さん（83歳）は「最高の天気で気持ちよく歩けた」と充実した表情を見せてくれました。

ウォーキング終了後は、お代わり自由の砂丘麦とろ飯としじみ汁のふるまいを堪能。地元野菜などが当たるお楽しみ抽選会も行われ、参加者は楽しい1日を過ごしていました。



ウォーキングを楽しむ参加者



着任のあいさつをする川廣基地司令

## 車力分屯基地に川廣基地司令が着任

航空自衛隊第21高射隊および車力分屯基地の栗秋健士隊長兼ねて基地司令が8月31日付けで離任し、9月1日、新たに川廣佳親2等空佐（43歳）が同職に着任しました。川廣司令は茨城県古河市出身で、前任地は東京・市ヶ谷の防衛監察本部。車力分屯基地の22代目司令として隊員らを指揮します。

9月12日、市役所を訪れた川廣司令は、福島市長へ着任のあいさつ。「市や県としっかり情報を共有しながら、期待に応えられるようがんばりたい」と抱負を語りました。福島市長は「北朝鮮のミサイル発射によって不安を抱く住民は多い。今後も地元住民と良好な関係を続け市民の安心安全のため努めていただきたい」と激励していました。

## 木造中の江良君、小田川君が剣道全国大会へ

剣道の木造剣礼会に所属する江良武瑠君と小田川竜登君（ともに木造中3年）が県内の剣道大会で優秀な成績を収め、全国大会への切符を手にしました。小田川君は、県中学校春季剣道選手権大会（5月5日、青森市）の個人戦で3位となった成績が認められ、県代表メンバーの中堅（5人団体戦の3番手）として、9月17日に大阪市で開催される大会に出場。江良君は、県道場少年剣道大会（4月29日、青森市）個人戦で見事優勝し、10月8日に仙台市で開催される大会に進出します。

9月13日、2人は福島市長を表敬訪問。小田川君は「中堅は勝敗を分ける要。しっかりと役割を果たす」、江良君は「県の一歩だけが集まる大会。強い気持ちで挑む」と抱負を語りました。



決意を述べた江良君(中央左)と小田川君(中央右)



みんなに祝福され笑顔を見せる原田さん

## 原田シゲノさん100歳おめでとう

原田シゲノさん（木造福原）が9月14日、めでたく満100歳を迎えられ、入所先の介護老人保健施設サンタハウス弘前で長寿を祝いました。大正6年生まれの原田さんは、柏下古川出身。亡くなった夫の東一郎さんと農業を営み、子ども6人、孫17人、ひ孫25人に恵まれました。

市の白戸福祉部長より顕彰状と記念品が手渡されたあと、親族や入所者、施設職員ら約80人が歌で祝福。バースデーケーキも用意され、原田さんは「ありがとう」と笑顔を見せていました。娘の山下さんによると「何事にも感謝し自然とありがとうという言葉が出る人。そういう穏やかな気持ちで暮らせることが長生きの秘けつでは」と話していました。